令和4年度第2回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
認可確認部会会議録

- 1 日時 令和5年1月23日(月)午後1時25分～午後2時00分
- 2 場所 秋田市役所5階 第2委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員(2名)
奥山順子部会長、山崎純副部会長
欠席委員には資料送付のうえ、意見の有無について確認した。
 - (2) 事務局
佐藤伸施設指導室長、吉田智紀子ども育成課長ほか関係職員
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議の内容
開会
議事
・幼保連携型認定こども園の設置認可および利用定員の設定について
その他
閉会
- 6 議事

奥山順子部会長

それでは、幼保連携型認定こども園の設置認可および利用定員の設定について事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】 幼保連携型認定こども園ナーサリー土崎

事務局説明の後、欠席者の三條正弘委員から以下の意見があったことを報告した。

- ・認可理由は、幼保連携型認定こども園に相応しい。
- ・全体計画、事業計画、事業概要について、認可に相応しい。
- ・子育て支援室について、活動に適切な広さが確保されているか、部会で意見交換をしてほしい。

山崎純副部会長

全体的な計画に記載されている子育て支援について、育児相談は相談日を設け

るのか、それとも随時相談があった際に対応するのか、具体的なところが見えないため、育児相談を含めて、今後どのような子育て支援を実施していくのか教えてほしいです。

また、三條委員から意見のあった子育て支援室について、平面図から広さのイメージができず、何畳程度になるのか、そこでどのような活動を行おうとしているのか教えてほしいです。

これまでも子育て支援は当然実施してきていると思いますが、今までどういった支援を実施していたのか、今後はそれを継続しようとしているのか、子育て支援全体に対しての計画を教えてください。

○奥山順子部会長

子育て支援について関連してですが、地域とのつながりを大事にされているように感じており、計画には「地域への発信」というような言葉も出てきていて、そういったことも子育て支援の中に含まれているのかどうかといったところを伺いたいです。

○事務局（菊地主席主査）

子育て支援に関しては、資料の29・30ページに記載があります。ナーサリー土崎では、保育所である現在も園開放を行っており、新型コロナで中止となる場合もあったものの、開催できるときは園開放を行うという積極的な姿勢で取り組んでおり、そうした機会を通して園開放の中で相談に応じるといった活動を行ってきています。認定こども園になってからも子育て支援は大事にしていきたいとのことでした。

その他、子育て支援全体の詳細な活動についても、資料に記載されているような内容で支援に取り組んでいきたいということを確認しております。

○山崎純副部会長

園開放は一般的にどこの園でも行われていると思いますが、どの程度の利用者があり、どのような相談があったかなどは把握していないのですよね。園が作成する計画に対してどのような実態があるのかといったことが分からないので、この園に限っての話ではありませんが、今後の課題として検討いただいたほうがよいのではないかと思います。

○奥山順子部会長

実際問題、子育ての相談などを日常的に行っているのは在園児が中心だと思われませんが、保育所が認定こども園になったとしても、子育て支援は園の機能として行わなければならないものであるため、地域にどう開かれていくのか、全体的に見ていかなければいけないのかなと思います。

○事務局（菊地主席主査）

指導監査の際、園開放の記録については確認してきておりますが、人数や回数については集計しておりません。実際に園開放を行った際には、きちんと記録を残して今後活かしていくという取り組みが行われております。認定こども園となった際には、地域の子育て支援も重要な項目となるため、こちらでも丁寧に確認していきたいと思っております。

○事務局（佐藤施設指導室長）

子育て支援室の広さについては3.5m×3.5mであり、簡単に換算すると7畳ほどになります。

○山崎純副部長

そこでどのような活動を行おうとしているのでしょうか。

○事務局（佐藤施設指導室長）

資料の28ページに、あまり具体的ではありませんが、計画されている子育て支援の項目が記載されております。

○奥山順子部長

多くの保育施設では子育て支援室は手狭であり、園児が減ったために空いた保育室等が一時的な遊び場として利用されているのが現状です。この園についても、今の話を伺うと、日常的に在宅の親子が遊びに来れるスペースは確保されておらず、育児相談や少人数での話し合いといった程度を想定されている気がします。そうすると、日常的に遊びに来る、あるいは行事としての園開放の場合には、他の子どもたちが生活しているスペースや遊戯室を使う計画なのかなと思っております。

○事務局（佐藤施設指導室長）

まだ図面が出来上がっているわけではないので、意見として法人に伝えて、検討していただくことは可能ですが、あまり大きい部屋を作るとなると難しいと思われると思います。

○奥山順子部長

子育て支援室の広さに関する基準は特にないので、園の実施計画と園舎の中でどう工夫ができるか検討していただくしかないのかなと。

○事務局（佐藤施設指導室長）

しっかりと中身のある計画になるよう、法人に伝えていきたいと思っております。

○山崎純副部長

県のサポート事業について、職員の入れ替わり等でサポートを受けていない職員が出てくることもあると思いますが、そういった職員に対するフォローは何か

あるのでしょうか。

○事務局（嶋田副参事）

県のサポート事業については、幼保連携型認定こども園になる前のものとなっており、ナーサリー土崎では令和2・3年度で受け終わっていることから、その後は、秋田市が要請訪問や園内研修で継続的な指導を行っていくこととなります。

○山崎純副部長

要請を受けて初めて訪問するのでしょうか。

○事務局（嶋田副参事）

基本的には要請という形ではありますが、他の施設類型から移行した園については積極的に活用してもらうよう指導を行っており、これまでも移行した全ての園で活用をいただいているという状況です。

○奥山順子部長

少し関連するのですが、職員数は基準を満たしてはいるものの、複数の職員が外に研修に出られるかというところも中々厳しい状況かと思えます。若い先生が多い園だと記憶していますので、若い保育者が、これからキャリアを積み重ねていけるような職場環境を作っていけるよう、頑張ってくださいたいです。

○奥山順子部長

午睡は遊戯室で行われるのでしょうか。5歳児の計画を見ると「下の子の面倒をみる」というような文面があり、一緒にお昼寝するのかなと思ったのですが。

○事務局（菊地主席主査）

遊戯室で行っていた時もあったのですが、コロナ禍ということもあり、状況を見ながら取り組んでいるものと把握しています。

○奥山順子部長

計画類について、頑張って作成されたものと思いますが、認可や監査に向けてペーパーを作ることが計画ではなく、これがあることが保育者の保育を支えるものであるという実質的な意味を持たないといけないと思います。これからも具体的に自分達の保育に役立つよう、実践の中での日常的・継続的な見直し・検討を重ねてほしいと思います。複数の園を運営されている法人ですので、こういった認可という機会に、一生懸命に検討された成果が、ぜひ他の園にも波及してほしいです。

○事務局（菊地主席主査）

計画と実際の保育が乖離しないよう、要請訪問等の保育を見る機会を通して、

そのことを園に伝えていくよう取り組んでまいります。

奥山順子部会長

ほかにはよろしいですか。ないようですので、これを持ちまして、議事を終了いたします。